

地域説明会質疑応答の要約

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中央小 6月1日	1 現状で複式になっているのに、前期8年も期間を置かなければならない理由は何か。	22年度から地区の協議を始めて、8年後に統合を始めるということではなく、準備が整い条件が整備されれば、早めにやるという想定。ブロックの話し合いの進捗状況によっては、前半の早い段階でやることは考えられる。
	2 素案で示した学校数は小2校、中1校だが、どの学校かというのがあるのか。	学校は素案では書いていない。統合場所はどこがいいのか、皆さんが納得できるか、合理性があるかという話し合いをしていくので、今の段階で統合場所は決めていない。
	3 もし長橋小に通うことになった場合、スクールバスになると思うが、その時は実費か。	現行でバスの通学助成制度がある。全額助成だが、統合で遠距離になればこの制度の活用を考える。
	4 統合となると現実問題として、2学級の規模でつくられていないので、この学校を使うというのは難しいと思う。どこかに行くことになるが、一番心配なのは、子供の精神状態。「再編は、編入する統合だけではなく」とあるが、塩谷小でも(人数が)4倍。うちの子供は周りを知らず、周りのお互い友達同士。この状況は編入に近い。心のケアのため知っている先生がいると支えになるので、先生の配置にも考慮はあるのか。	<p>今まで3つの質問が出た。統合の時期だが、年内21年中に素案から計画にしていきたい。その次だが、13P「実施計画の策定」の項目になる。学校間距離のことなど地域により事情が違うので、市内一律の議論ではなく、ブロック単位で議論し実施計画をつくらうというものだ。そこでは、統合学校の位置、組合せ、そして通学区域も変わるわけだ。そういう議論を22年度から具体的にやるが、統合に向けたスケジュールもある。子供、保護者同士の交流などどれくらいの時間、どういふことをやるのか。配慮すべき事項として、通学距離が当然長くなるのでバス助成を考える。今はスクールバスを出しているところや、路線バスの定期代通年補助もあるので、やっていかなければならないと思う。</p> <p>堺小の時、花園小と稲穂小に子供が行った。統合前に子供たちの交流を持ち、親と子の相談員を両校に置いた。今はスクールカウンセラー事業があり、重点的に充てるなど十分に対応したい。</p> <p>堺小では全員というわけにはいかなかったが、先生も一緒に異動した。任命権者は道教委だが、統廃合は小樽市が主体的にするので、当然子供をよく知る先生は必ず行ってもらい、子供の安心につなげる。そういう配慮はここだけではなく他の学校でも一緒に行くというケアはこれまでどおりしていきたい。</p> <p>堺小では、PTA同士の交流もした。また、子供の交流にこのスクールバスを借りて、稲穂小や花園小に連れて行くこともした。手宮地区では遠足の行き先を同じ場所にして昼食を一緒にして顔見知りになろうなど考えていた。小学校ではその辺の心配が多いので、学校や保護者からもアイデアをもらいながら事前の交流をして子供の負担を少なくしたい。</p>
	5 話してもらった事前の交流はすごくよいと思うので、統合が決まれば時間の許す限りたくさんやってほしい。	

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中央小	6 子供のクラスでは男子が2人。統合で2クラスになれば、バラバラになる可能性があり、1人だけで他は皆同じ学校の子となるととても心配。知っている先生か仲良くしてくれるリーダーシップのとれる男子がいるとうれしい。交流会はよいが、それで子供が本当に安心するか。子供の意見を聞く機会も持ってほしい。	堺小の例では、学級の割り振りは学校で配慮した。先生の異動も、顔見知りの先生が必ずいるという状態を作った。また、子供の気持ちについては、先生方に様子を聞きながら配慮しますが、統合まで短期間で行うことにはならないので、その間に、子供からどういう学校生活を期待しているかというような聞き方のアンケート、話し合いなどを設定するなど、いろいろな形で新しい学校づくりに活かしていきたい。
	7 統合の際に、統合先の学校の登校時間に合わせると、起きる時間、食事の時間も早くなる。学校の始業時間の変更はないのか。	具体的な実施計画ができた後に、学校生活の件は学校の先生たちが考えることなので素案では入っていないが、「在り方検討委員会」答申では、通学にバス利用となる場合の放課後の課外活動等のことが触れられている。放課後だけではなく朝の時間帯の時間割も工夫することが必要な場合もあるので、新しい学校では頭に入れた話し合いをすべきです。
	8 塩谷小の放課後児童クラブは学校から離れたところにあるが、学校の中に移す考えはないか。	学校で開設する放課後児童クラブは教委で所管している。全道、全国的にも学校の外にある方が半数ほどで一般的。札幌は基本的に児童館。小樽では、いなきたと塩谷の児童館(センター)でやっていて、そのほかは勤労女性センターであとは学校。親としては移動がない学校が安心という気持ちがあるが、児童館ではクラブ以外の子供も来て、児童施設なので校庭や小体育館もあるので、限られた学校の教室内より活動のバリエーションが相当広がる。新1年生も慣れるまで移動の際は先生がついていく。どちらが良いと言いくい面がある。地区に児童館があれば、近所の子供たちも来るので時間の過ごし方としてはそちらの方が良いのではないか。
	9 統廃合や、スクールバスは今まで経験ないことで想像つかない。堺小などで経験した人が、長短所をどうとらえているかを知る機会があればと思う。短所は、それに備えることが必要だと思うので。	手宮地区の計画のとき、運動不足になるのでスクールバスはやめてほしいという声があった。ここは隣の学校まで5kmなので、歩く距離ではないので、安全面からもスクールバスとなるわけだが、親としては子供の体力のことや、友達と雑談や寄り道をしながら歩くのもいいですねという話題もあった。 現在、市内ではスクールバス、路線バスで通う子供が400人位いる。こども桃内地区の関係でスクールバスを運行している。H18に堺小が統合されたが、保護者から個人的に何かありましたかと聞くのは難しいので、当時の校長や、受け入れた稲穂小、花園小の先生にどんな様子だったのか、どんなことに学校として気をつけたのかなど聞けるので、地区段階の議論の中でお話してできるようとりまとめをしておきたい。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中央小	10 小学生は通学時間が長くなるので不安だ。教委で通学時間はどの程度という目安を考えているのか。スクールバスに乗り遅れた場合や体調などのことで乗れなかったときの対応はどう考えているか。時間に追われるのは小学生ではかなり負担になる。	今のスクールバスだが、朝の開門時間に間に合うよう運行時間を決めている。長小は2台運行しているが、1台目の5分後に2台目が出発する。その時間に間に合うように来てもらっているが、何かの事情で遅れたら路線バスに乗っている。通学時間の考え方が、学校の配置は、距離で現行は小4km、中6kmという目安で設定されている。時間という考え方は現行ではないが、国では距離と時間という審議がされているので、その審議によっては目安として通学時間も示されてくる可能性はあると思う。
	11 乗り遅れた場合、路線バスに乗るといことだが、混んでいる時間帯に小学生が乗るのは大変だと思う。適正配置で色々な地域の子が一つの学校に通うことはいい面もあるのだろうが、地域が遠くに行ってしまうと思う。遊びに行くにもバスで行かねばならず、帰ってくるまでどうなるのか(過ごすのか)という部分で(目の届く範囲から離れるという)不安に思う面がある。その辺も考慮した方がよい。	通学区域が広くなることで色々な課題が出ると思う。来年以降も具体的な話をしていきたいが、学校が遠くなることと近所の子供がいなくなることは別の問題だ。学校が20人、30人という状態だということも含め、ベースになる今回の考え方を示した。具体的に地域の問題、通学距離の問題、バス利用での問題などの課題を今後議論したい。
	12 (意見)統廃合の話は4、5年前に聞いたが、進まないのかなという気持ちだった。町会の総会で質問もあった。素案だが、ほぼ決まったと受け止めている。そこで第一に考えてほしいのは、国、小樽市の宝である子供に対しどうするのが最適かということで物事を進めていただくこと。子供の数も少なく、親は今のことに意見が集中してしまうが、外で揉まれ、大勢の先生方に接しながらたくましく生きていかなければ、21世紀は乗り越えられない。子供たちを未来の宝として先生、教育界、地域が一体となり育てる気構えを忘れず当たってほしい。	
	13 統廃合は決定か。	素案を皆さんに示している。手続きとして、秋にパブリックコメントを踏んで、年末までに決定したい。説明会の中で市民の了解があれば、のパブリックコメントあと正式なものにする。このあと来年度から地区ごとの話し合いをする。
	14 人数が少なく親もそれを分かって通わせているし、大きな学校が良いということで余市の小学校に通う子もいる。規模が大きければ大変だが、成長する面もある。この学校でも上級生と仲が良いなど良いところもたくさんあるが、欠点もある。少ない友達と仲が悪かったらどうにもならないし、中学校の部活も少ない。親はそれを分かっているのに、行きたい人だけ統合した学校に行けるようなことは考えていないか。	学校設置の責任は市にあり、教育委員会が運営している。完全に自由に選ぶということではなくて、将来的に安定した運営ということからいくと、通学校は決めなければいけない。その中で不十分な点は克服していく。自由に選んで行けるということは今回の計画では考えていない。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中央小	<p>15</p> <p>スクールバスなどの親の負担は統廃合では小さい。多少の苦労は当たり前だと思う。ただ、精神面の負担が一番大変。堺小の例でもよいが、子供自体が統廃合で感じた、嫌な思い、いいところというようなことを聞きたい。</p>	<p>当時の校長や現場の先生から子供の様子は聞けます。当時も聞いたが、仲間外れやいじめということはなかったし、そんなに心配しなくても仲良くいくものですということでした。ただ、ある保護者からは、結構プレッシャーに感じていた子もいて、全部が全部うまくいったというわけではないという話も聞いている。改めて学校の当時の先生に意見を聞くことはできるが、子供に直接聞くというのは許してもらいたい。</p>
	<p>16</p> <p>学校は地域の活性化ということもあり、学芸会に町内の人にも来てもらっている。統廃合で遠くなると、学校行事にも行けない。地域の人と子供が触れ合う機会として大きなものなので、統合で学校として使わなくなっても建物を残して、町内と子供が触れ合える機会を作ってほしい。</p>	<p>8P⑦「廃止となる学校施設の跡利用」の項目がある。中心部と違い、学校は公共施設として数少ない施設だ。桃内小は町会の会館に利用された。中心部の学校は、看護学校、双葉中、教育委員会などで使われている。仮にここが学校として使わなくなっても、体育館、校舎があるので、地域での使い方、要望、管理など、一つの大きな議論の柱となる。</p> <p>地域との関わりでは、8P⑤「保護者や地域住民との共通理解」の項目もある。学校がなくなるとしても、子供は地域とつながっている。これからも地域の中の子供ということで皆さんの絶大なる支援を望む。ここでは、学校田を提供してもらい田植えをしている。地域と一体となった行事の例だ。よい伝統は統合先の学校にも引き継いでもらい、フィールドが広がる形での地域と学校とのつながりを、再編の中で作り上げることが理想的。その辺の具体化は、どういう学校づくりをしていくか、アイデアを出してもらい取り組みたい。</p>
	<p>17</p> <p>(要望)校舎の跡利用だが、桃内町会では消防訓練に学校裏の水路を使わせてもらっている。町会として跡地のことはもう少し後のことだと思うが、再度、市や教育委員会と話していきたい。</p>	
	<p>18</p> <p>小中の統廃合だが、同時期にやるのか。小でやって、中でまた統廃合されるということはないか。</p>	<p>ブロックによっては、同時期になることもあるし、少しずれることもあろう。12P②にあるように、小学校のときに統合して、新しい友達関係ができたのに、また中学校で統合の結果、新しい友達関係を作っていかなければならないようなことは、大きな負担。そういうことは避ける考え方で、ブロックでの小と中の再編をどのようにするか決め、統合時期はどの辺にするのがよいかというような決め方をしていきたい。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
塩谷小	1 中学校の3年間で塩谷中が廃校になるなら最初から長橋中に行かせたいし、下級生がいない最後の学年として学校生活を送る場合もそうだ。具体的な統合時期はいつか。そうなればバス通学になると思うが、助成制度はあるのか。	基本計画では学校の組合せ、通学区域、統合の時期について書いていない。教委が一律に決めて示すことは考えていない。ブロック内の子供の状況や建物のことを考え、ある程度の規模を確保しながら何校が良いかと示したものだ。それが良しとなれば統合の形の話し合いになる。今の段階で何年にどこの学校と統合するという話ではない。中学校の問題だから中学校の保護者とだけではなく、小学校やこれから入学する子供の親や、地域との話も必要となる。皆さんの意見を最大限尊重して、時期についても課題があれば解消し進めていきたい。 現在の制度は、小学生は2km、中学生は3km以上でバス助成している。長小では住宅生協付近に100人位いるのでスクールバスを出している。塩谷小では塩谷1丁目の3人にバス定期代を通年助成している。再編計画では通学距離が長くなるということになるので、そのような対応はしていく。
6月9日	2 校区外の通学ではバス助成が出ないと聞いた。統合が前提ということになっても同じか。	現在は、住所と指定校との距離なので、いわゆる指定校変更の場合は対象にしていない。12P⑧に指定校変更の弾力的対応としているが、その場合の助成の関係は、どういう状況になるか相談しながら、協議していかなければならないと思う。
	3 地域ごとで話し合うと言うが、その地域の中でも同じ条件ではない。小学校同士でも温度差がある。話しが早くまとまれば早く進むが、逆にこじれた場合はどうなるのか。ある学校を残して他の3校を2校にすることもいいのか。その場合のめど、どの段階でまとめていくのか先行きが不安である。	数年前の適配の中で、市内全体の学校配置を考え、全体のビジョンをはっきりさせて話し合うべきという声があった。そうやらなければと考え、全市的な配置の考え方を出した。ブロックで一定期間の中で話し合うとしているが、学校数について概ねの合意をもらい、この中でそのための道筋をどうするか来年度から話し合う。話し合いを尊重し、統合の時間がずれることもあると思う。小中の関係でもそれは出てくる。ブロックごとの実施計画の中で位置づけながら合意を図りたい。 このブロックの小学校は4校から2校にと考えているが、それぞれの地域や学校での考え方、議論がされると思うので、それが4→3→2校と時間の幅を置くこともダメではなくあり得ると思う。小学校で統廃合になり、中学校でまたというのは基本的には避けたい。「まずここをやり何年後にここをやる」とか「一緒にやってしまう」など色々な議論があると思うので、22年度から具体的な議論をする。この学校だけではなく近隣の学校を含めた話の場面や中学校を含めてという形もあり、きめ細かい議論をしていきたい。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
塩谷小	<p>4 6年生と下にも子供がいるが、中学になり途中で学校が変わった場合制服はどうなるのか。</p>	<p>H13の中学校統合の時には、しばらく制服が混在していても問題ないということにした。他にジャージのこともあったが、大きな問題にはならなかった。</p> <p>小学校でも、学校で使うドリルや笛の種類など違う場合がある。見過ごしがちだが、教委でもリストアップしているので、統合して違うことが分かったなどということはある得ない。ドリルだけに限らず、朝の読書活動など学校の特徴があるので、統合までの間にそれを見越してお互いの学校で調整し、スムーズに子供たちが統合できるようなことは堺小の時にもやったが、教育のやり方のすり合わせは基本計画には書いていないが、大前提になる。</p>
	<p>5 少子化、耐震化を踏まえると再編は仕方がないが、地域や保護者の意向はある程度つかんでいるのか。意向とは、「やむを得ない」、「統合すべき」、「地域性を生かしてこのまま」ということだが。</p>	<p>つかんでいない。こういう場のやり取りの中で意見交換をしているので、地元の意向はどうなのかというより、いろいろな質問に答えていく形の議論をしていく。個別、具体的な議論はこの計画をあげてからと考えているが、今は共通理解で議論を進めたいと考えている。</p>
	<p>6 (意見)保護者などの声を全部聞くと收拾がつかなくなるのは分かるが、歴史の長い小樽市で地域での重い学校の位置づけがある。実態を知っているのは現場であり、その最高責任者の校長だ。校長はPTA会長との連携や地域の実態をつかんでいるので、現場の声、先生方の声をつかみ丁寧な対応をしてほしい。特に塩谷は校区が広く恵まれた環境で父母も愛着を持つ方が多いので、それも含めてお願いしたい。</p>	
	<p>7 塩谷では幼稚園もなくなり、市内では富岡小、桃内小、堺小3校、中も3校なくなり、高校も統合で縮小、小樽短大もなくなった。少子化でこういう形にならざるを得ないかもしれないが、母校として残したい。エゴで言えば、ここに新しい学校を建て、忍路小と長小の一部にきてもらいここを大きくしたいと思います。少子化で学校行事も寂しい。親としては学校は残したいのが本音。統廃合で色々な人と輪になっていくのも良いと思うが、校長、教頭、各先生、現場の意見を聞いてほしい。保護者、児童に極端な負担をかけないような学校再編成をお願いします。</p>	<p>学校は大小関係なく、地域の公共施設の核で大事な施設であることは事実で、十分理解している。S33に41000人いたが、今年は8823人と20%。何校か統廃合したが、学校数は基本的には変わっていない。当時20万人の人口で今14万人を切る中で、学校の在り方も考えなければならない。資料編に生まれた子供のグラフがあるが、H16に一気に落ちて、入学するH23からまた一つの段階を迎える実態がある。教育委員会として学校の再編は考えていかなければならないと思っている。現状を理解してもらい、再編について協力をお願いすることだと考える。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
塩谷小	8 学校統廃合や学校数の具体的な数字など、これからは大切な問題だと思ふ。それとは別に、地域の声として聞いてほしいが、塩谷は学校を中心にして沢つたいになり各集落に分かれており、児童生徒を通じてコミュニケーションのネットワークがある。忍路と塩谷は隣接するが、5、6km離れ、自然も厳しい。そういう中では、町の中の統廃合と同じ考えでは、へき地に住む人間としては切ないものがある。バス通学になると町の中から児童の歩く姿が見えなくなる。町の中には商店街があるが、へき地にはそれかわるものがない。地域の安全や「願う会」も弱体化する可能性もある。そういうことも考えてほしい。小中9年間バス通学では体力が養われず、へき地では車社会なのでずっと車で移動する子供ができる。地域のこうした実情を考えていただきたい。	
	9 塩谷地区だけではないが、小学校と中学校を一つの学校にすることは考えていないか。この計画は決定ではないですね。	小中の併設だが、来年度以降、地域の選択肢としてそれでまとまるのならそれは一つの議論だと思ふ。小さな町村で、小も中も1校ずつしかなく、一緒に学校にして運営するやり方のところもあるが、教育委員会の考えは、小樽はそれなりの規模の町なので一定距離はあるが、他にも学校があり、果たして小中ずっと同じ形でいくことが良いのか、一定の規模を持つのが良いというものです。
	10 人数を増やすのは、オタモイの一部を一緒にするとか通学区域を広げれば良いだけ。結局、学校を減らすのが目的なのか。	通学区域の件については今答えられないので、提案として聞く。地区での具体的な話の中ではそういう議論もあってよいので、一つの議論素材としてさせてもらう。
	11 極端な話として、塩谷中の部活動が少なく選択肢がないので、進学する子供の半分以上が長橋中に行くことになればどうなるのか。	15年くらい前には、指定校変更は難しく、よほどの理由がなければ認められなかった。東京などで学校が自由に選べるという動きや保護者サイドの選択権の議論も多くなっている。部活動は中学校生活で大きな要素を占め、今は、指定校変更の理由として認めている。教育委員会としては、收拾がつかなくなることもあり、基本的にはその学校に入学してもらいたい思いはある。それで再編の理由にも挙げているが、部活動や色々な交流に支障があるわけだから再編をしたうえで解決したいという考えだ。統合までの間は従前どおり指定校変更の基準で判断するが、逆にそういうこともあるので再編しなければと思っている。

塩谷・長橋ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
塩谷小			<p>5P、6Pで小規模校の特徴と課題をあげた。長所と言える特徴を5点挙げているが、教育委員会でも長所は理解している。また、教育活動や学校運営上の課題としてクラブ活動や部活動の内容への影響も含め整理しているが、課題もある。そこで、学校規模をどうとらえていけば良いのかを4つにまとめている。ある程度の規模により、教育活動の中で足りないものは補っていかねばならないし、今ある良い部分はそれを広げる形をとり、地域の支援もより広げていけるようなことを頭に入れながら考えるとした。来年の懇談でまた意見交換をしていきたい。</p>
幸小	1	<p>学校で学んだ知識や人格形成を支えるのは健康な体だが、子供の健康な体を育てる観点は計画にどのように反映されているか。</p>	<p>学校教育の「知徳体」は適配にかかわらず毎日の教育活動でやっている。適配では新しい学校なりの、体づくりに取り組むし、やらなければならない。</p>
	2	<p>塩谷・長橋地区が一番広いので遠距離通学にかかわって子供の健康について意見を言う。視力低下と殺虫剤の関係など子供の体力調査を研究している正木健夫氏によると、土踏まずの形成が弱い東北の地域は統廃合でスクールバス通学だったという。長橋バイパスなど以前より危険なのでスクールバスは出さなければならないと思うが、健康面と帰る時間に追われることや寄り道できる通学区域が自然。</p>	<p>貴重な意見だが、今までもマラソンなども取り入れている学校もあり、統合場所も踏まえた教育活動を考えなければならない。</p>
6月10日	3	<p>望ましい規模という言葉が随所にあるが、1学級30人と言っている。現在の平均人数と再編後の人数を知りたい。</p>	<p>14P欄外に記載したが、小26. 9人、中30. 4人で30人前後が現状です。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
幸小	<p>4 6年間同じクラスではつまずいた時につらい思いをするのでクラス替えてできる規模が必要だ。残る学校が長橋小、幸小いずれにしても老朽化し雨漏りもある。耐震補強5校に幸小は入っていないが存続ならば早急に耐震補強を進めてほしい。通学の点では長橋小に1路線では行けないので新設校がどこかにできればと思う。今日もPTAの参加が少なく、PTAが消極的なことは他も同じだと思うが、統合では通学区域が広範囲になりますます関わりが薄くなる。あまり離れると学校に行く機会も今以上に減るので統合となればスクールバスを配車するなど積極的に学校に参加できる環境作りをしてほしい。15年間で教員も徐々に減ることになるが、若い有能な先生を残して配置するようにしてほしい。</p>	<p>古い学校の補修や雨漏りなどは応急措置でやっているのが現状。大規模改修は計画的にやっているが遅れがちになっているのが正直なところ。耐震補強工事も統合という部分もあるが平行して取り組む。バスの関係は、バス利用の対応をするが、現状は市内で400人位がスクールバスか路線バスを利用して通学している。ブロックごとに統合の組合せで通学区域が決まるので、その中でどのような通学形態となるのか来年度以降の協議で話をする。スクールバスとなれば運行ダイヤなど統合計画後の準備期間の中で詰めの話をして一番良い形を作っていきたい。</p> <p>教職員のことだが、15年で統合を進めるが一斉に行うわけではない。話し合いで早くまとまれば早く動かし、8年間の最後の年となれば2、3年前に決まるようにしなければならない。15年のスパンで後志との交流もあり、今の段階では設計できないが、北海道でも若い先生も900人以上の採用があり新しい先生も来ている。年配の先生の経験や素晴らしさを発揮してもらいながら若い先生を入れて鍛えてもらうようにしたい。一遍に学校が半分になり、半分の先生がいなくなるという考えではない。</p>
	<p>5 適正規模を小学校では12学級との観点だが、学級数より1学級の児童数が大事だ。今の26.9人が30人になると3、4人でも学級の受け入れの対応が違ってくる。ヨーロッパでは20人前後が当たり前。すべての子供に目が行き渡るように授業を進めるため発表回数などのデータをとることや、色々な子供同士のトラブルが絶えずあり、放課後の会議も多く、10年、20年前と比べ先生が忙しく、精神疾患も増えている。先生が大変だということは子供に目が行き渡らないことだ。クラス替えのできる12学級ということにエネルギーを使うなら、副担任や専科教員を増やすことの方が学習能力向上や人間形成に大きなものになる。</p>	<p>子供たちは子供たちの中で社会性を身につけ、色々な意見を聞いて自分の意見を出しながら成長する。その中で先生方が十分目が行き届くことが大切。少人数であることで生徒と先生とのつながりで親密な関係という良い部分はあるが、やはり子供は子供の中で育つという部分では、今の教育は受身で何々をさせるというのではなく、子供たちが能動的に調べたりという活動を主としているので、興味関心を広めるためには、複数学級で先生の数が多ければそうなりやすい。1クラスの子供に当たる先生の人数が多い方がきめ細かな指導ができるという意見だが、現在も11校でTT加配をして11つのクラスに2人ついて指導している。統合でのその制度を活用し充実させたい。</p>
	<p>6 校区を地域ブロックごとに検討するとあるがどのような形でどういうメンバーか。もう少し詳しいタイムスケジュールを教えてください。</p>	<p>基本計画の説明会での意見等を整理し補強し、秋にパブリックコメントをする。年内に基本計画として出来上がらせたい。22年度からブロック別検討になるが地域で懇談会を開く。そこでは教委が説明する場ではなく、たたき台的なプランを考えてほしいという声が他会場でも出たのでそれを提示し、良い点悪い点の話し合いをする。それで実施計画をまとめるが、それは13P5(2)の4点を決める。6ブロックでは子供の数の動きや校舎の状況が違うので、先に何年に統合を決め逆算してやるのは難しい。前の小学校の計画ではいつまでやるという案を出したが、今回は市内全体を対象にしているなので今の段階では言えないことになるので、スケジュールは22年度から話しをするとしが言えない。このブロックでは前期期間の中で終結できるようにしたい。</p>

塩谷・長橋ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
幸小	7	スケジュールについては分かったが、これから入学する子供の保護者に周知し皆で考えることをどのように考えているのか。地区ブロックで検討するメンバーは。	22年度からの協議メンバーは固定しない。教委で懇談の呼びかけをするが、小のPTAだけではなく、地域の町会や幼稚園、保育所の家庭にも呼びかける。今回も呼びかけていて、他の会場では参加しており、入学後のことについての率直な質問もあった。ここには幼稚園の関係者はいないようだが、資料も全家庭に配布している。これからも工夫をしながら参加できるようなやり方を考えている。
	8	一度学校が地域から消えると元にもどらない。地域の文化の喪失につながるおそれ大きい。クラスの子供が仲良くなってもバスに乗って遊びに行くことはなく疎遠になる。子供のストレスが問題になっているが学習指導要領が変わり1年生も5時間授業が増え、非常に疲れている中で1学級30人にして学校に行くのが楽しい、授業が良く分かるという学校になれるか。地域から学校がなくなる、人数が30人になるという点で危惧、不安を感じる。	意見として聞いた。これから保護者や小さな子供の保護者、地域の方の意見も入れ話をします。22年度からこの学校の保護者と話し中学校と合わせての場合やブロック全体が集まってということのように色々な方法で参加する皆さんの意見を勘案しながら進めていく考えです。
長橋小 6月5日		発言なし	

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中	1 望ましい規模を人数で考えているが、どういうメリットがあるか具体的なものがない。基となるものを教えてほしい。	規模が小さいと人数が少ないので、一人ひとりに目が届きやすく、先生方と親と子供の心が通うが、学習活動を考えると、教室での限られた指導ではそうだが、今の教育活動では能動的な部分も多い。自ら学び、自ら考え調べるといった子供の興味関心など課題、学習スタイルに応じて、教室の中だけではない多様な学習形態がある。個に応じた教育活動では、複数の先生が協力して、個別指導に加えグループ指導、習熟度別、課題別指導を行うことができるように、ある程度の規模が必要と考える。
5月22日	2 自分はここしか知らないが、他の学校はここは違う素晴らしい教育を受けているということになるのか。あおぼとプランなどで「開かれた学校」と言うが、統廃合で校区が広がり、地域で育てる部分がなくなるのではないかと。また、20年、30年経ち統廃合となるのではないかと。この(望ましい)規模で学習効果が上がるという具体例を出してほしい。	学習効果を示すものは、学力だけではない。それぞれの個性を伸ばすように個に応じた指導や社会性を身につけることも重要。学校教育では調和のとれた教育が大切だ。「推進計画」の関わりだが、小規模校にはその良さがある。ただ、体育、音楽では一定の学習集団を前提とする教育活動や子供同士の学び合い、多様な学習形態が可能となる、クラス替えにより作られる多様な人間関係、学年での先生が協力して学習指導、生徒指導にあたるなどの面から、一定程度の規模が望ましい。小規模校の良さを生かしていくことが必要だと思う。
	3 小さな学校の親からすると、リスクが大きいように思える。たくさんの友達ができるなど大きくなるメリットもあると思うが、数だけで統廃合を進めていくような気がする。デメリットの部分が前面に出てこないで、統廃合のときに話しが違い良いことばかり言っていたと思う保護者も出るのではないかと。	昨年地域懇談会や検討委員会の中継報告への意見でも出ていたが、素案5P、6Pを見てほしいが、メリット、デメリットという対立する問題とは捉えない。いつまでも対立点だけが残るからだ。5Pに小規模校の長所、課題を列記した。6Pでは望ましい規模の考え方を整理し、一定規模の学級数が必要だと示した。通学距離や新しい人間関係などのような顕在化するものではない、隠れているリスクもあるかもしれないが、それをなくしていくために、このような会を開いている。こういうことがあるからだめだではなく、小樽市全体の再編の必要性からも意見交換したい。
	4 自分の住む地域に特に関心を持つのは当たり前。この地区で中学校が1校となると、無くなるという不安を感じる。人数で割るとこの(学校の)数となるのだろうが、この数ありきで物事が進んでしまうことに不安がある。	学校規模は学級数に着目する。小さい学校と一定の規模の学校では、学校の運営上と教員の配置を考えると、学校の取り組みの強弱ということではないが、特に中学校は教科担任制なので、一定の学級数あったほうがマンパワーで子供に目が届く面がある。市内全体を見て、学級数の基準を出して、ブロックの子供の数を基礎にしていかなければならない。ここのブロックは中学校1校だが、そういう議論とは別の話です。
	5 (統合後、中学校が)1校ではなく2校になる可能性もあるのか。	望ましい規模の基準を置いたが、全体で割り算するわけにはいかないので、6ブロックで考えた。子供の数から小2、中1と示し、議論している。再編に向けて話をしていくが、絶対ダメだという意見も出るだろう。(協議をつくした)結果として絶対ダメだという形になれば進めないわけだから、そうならば一つの判断をしなければならぬだろう。(だが)忍路中の現状は、今年複式になり今後も人数が15人、20人なのでそのままにすべきではないと考えている。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
忍路中	6 昭和29年に卒業したが、同期会は毎年やっている。この地域に生まれ誇りを持ち、学校を中心に地域の人がまとまって色々な働きをしている。統合により地域は過疎に拍車がかかる。避難場所はどうなるのか。学校に対し地域が持っている想いを重く受け止めてほしい。計画が実施されれば先生の数(が減ること)から財政的に痛手となるのではないか。後志で市町村合併が進めないのは地域が疑問に思っているからだ。	学校が無くなる寂しさは分かる。地域の学校を無くそうと思いついていない。忍路中も隣の塩谷中も1クラスになり、全体的に子供が減り、学校規模が小さくなっている。この現状が続くことが良いとは思わず、一定の再編は必要と判断した。意見を否定しないが、再編の必要性を説明するため説明会をしている。
	7 (意見)中心部の統合とは違う蘭島地区の地域性がある。市政の光が当たっているのかという疑問が生まれる。市営住宅も蘭島に1ヶ所古いのがあただけ。コミュニケーションの場は町内会館なので、蘭島会館で(説明会を)やればもっと人は来る。	
	8 小さな学校でPTA活動をしてきたが、学校が地域に支えられていることを実感した。異世代から学ぶ、地域から学ぶ、産業から学ぶなど、地域の教育力という面がなくなるというリスク(が生まれ)、地域の影響が少なくなると思う。地域と子供の、関係、接点が断ち切れ、大きな意味の社会性が欠如し、狭い年代でのものとなり、将来的に世代間で距離ができるのではないか。	地域との関係では8P⑤で記載した。基本方針でこのように整理したので、反対だと言われれば元も子もないが、この趣旨で、実施計画の段階で地域とどういう関係を作り新しい学校づくりをしようかという点で話をしたい。
	9 通学の安全だが、徒歩通学は無理。バス通学では部活や生徒会活動のあとバスで帰るのは体力的な負担となり、スクールバスも時間の制約が大きい。忍路の地域的なデメリットをどう考えているのか。	通学距離が長くなるのは他の地区でも同様。スクールバス、路線バスの活用になる。銭函地区では小3校、中1校で、主に小はスクールバス、中は部活の関係などから路線バスで定期代助成。市内全体では小のスクールバス利用は280人、小中の定期代助成は130人。
	10 校区が広くなり、家庭訪問の先生の負担も増えるのではないか。	距離が長くなるということもそうだが、学級編成からも先生の負担は増える。40人学級の中で、クラス人数の平均が30人程度だが、ここは15人に対し校長含め先生が6人。2:1の割合だが、他では35人、40人近い学級もあるわけだから、制度のことなので、先生にがんばってもらえない。 統合された学校では、一定程度の人数になるので家庭訪問は今までよりは大変になるが、それ以外の教科指導や他の分掌では軽減される。
	11 以前の中学校統廃合で、向上した面、悪くなった面はあったか。住吉中は何人いたのか。	統合は受験を控えた3年を残し、1、2年を先にという2段階だった。住吉中の3学年いた最後の年は134人。分け方は菁園中が一番多かった。
忍路中	12 統合後に学校が荒れた、登校拒否が増えたということはなかったのか。ここ2、3年、(忍路中は)登校拒否の子供を受け入れ卒業させ、志望高校に合格したと聞く。小規模校の良さがあったからだと思う。	不登校の子と相談した中で、忍路中に通うことになり、学校復帰でき卒業した。前の統合時に不登校が増えたかどうかは、それだけで比較していないので分からないが、学校が荒れたとは聞いていない。事前の交流や先生同士の取組を十分やったので、これからの再編でも十分活かして進めるし、小規模校の良さを統合校でも活かすようにする。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
	<p>13 現行制度の中で小中併置は可能か。学校が無くなれば地域は疲弊し、過疎化の進行する郡部のように衰退する。</p>	<p>地域に支えられ学校があることは承知し、特に忍路地区では餅つきや稲作で地域の力を借りて子供を育てている地域性もある。今回の全体計画では考え方をはっきりさせ素案を作った。ここは今年複式になり、一旦戻るが、H30にも複式になる。特に中学生の教育環境、教育条件としては課題が大きいと考える。子供が少ないのなら1つの学校でという併置校の考え方だが、塩谷地区も同じケースだが9年間同じに過ごすことは避けたい。小と中でお互い刺激し合いながらという通学区域がよいと考え、今回の全体計画の中では示していない。</p> <p>素案にないことは、今後議論しないということではない。併置でなくても9年間同じ1クラスで過ごすことは、そうすべきではないというのが素案の考え方だが、併置も含めて地域や保護者から声があれば議論はしていく。</p>
	<p>14 ここから余市へ入学している子がいるが、希望で可能なのか。この児童数の減少に影響していると思うが。</p>	<p>他の市町村に入学する場合は、区域外就学の手続きとなるが、保護者が申請し、そしてそれぞれの教育委員会が許可するという必要がある。</p> <p>小中学校は義務教育なので、小樽市が責任を持たなければならないが、余市への希望を余市の教育委員会が認めたものを小樽がダメとも言えない。小学生で4、5人いる。</p>
	<p>15 余市の学校に通う子供の保護者に、蘭島の子供神輿に誘っても友達がいなくて参加しないと。地域の行事に参加しないことは本当に良いことなのか疑問だ。自分の住む地域の行事を知らず、参加する楽しみを奪うことにならないか。学校に上がるときに学校がないということにならないように、入学前の保護者に話しをする場を設けた方がよい。</p>	<p>学校からのプリントでこの説明会を知ったPTAが多いが、同じように、幼稚園、保育所の全家庭に同じプリントを配った。他の会場では、入学前の保護者が発言をしていた。PRはできる限りのことはしています。</p>
	<p>16 (意見)会場は集まりやすい場所ですべきだ。この辺は小と中を区別せず町内会館でやった方がよい。</p>	

塩谷・長橋ブロック

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
塩谷中	1 今の時点で学校配置の案はあるのか。小2校、中1校と決まれば地域のバランス等を考えて、中は築年から長橋に置き、塩谷には小学校を残すなどの試案はあるのか。	素案では、市内全体の学校数について触れた。試案は全体的な合意ができてからの話だが、学校立地の条件、交通の利便、施設の状況などという選択肢があるか話し合いをしたい。ひとつのプランとして聞かせてもらいました。
	2 ここは校区が広がる。生徒指導、管理の面できちんとできるのか。	統合した規模では教員配置も増えるので、そういう面でカバーできる。
5月12日	3 以前、中学校3校が統合されたときの経緯を聞かせてほしい。	H13の中学校統合のときは、実施計画の中で対応を決めたが、たとえば生徒指導の面では生徒指導補助員を置く体制をとった。事前の交流も、子供も先生も行ったが、関連校連絡協議会という組織で引継ぎ体制を整えた。また、統合時期についてのアンケートなど、合意をとる工夫をしながら進めた。そのような経験を活かしていきたい。
	4 地区的に広範囲になるが、通学の足の確保という面でスクールバスを考えているのか。	地区的に色々な地理的条件があるが、基本的には今のバス助成制度をベースにしながら検討する。 素案P8の「⑧通学時のバス利用」の項で基本的な考え方に触れている。バスの運行状況の違いもあるので、ブロックごとの協議で具体的に詰める。
	5 説明で(素案は)漠然と分かったが、この次はどのような時期にどの程度の話となるのか。	全部の学校を回った後、秋にパブリックコメントを予定している。22年度からはどこに統合していくのかという具体的な話し合いを始める。その結果、実施計画を作り、中心部での統合経過のように進んでいく。
	6 競争心のない中でやっているのだから、(統合で)30人の中で、受験生の時だと心配だと思う。過保護かもしれないが、3年生の先生を増やしてフォローするような考慮をしてもらえるか。	統合が決まりすぐ翌年というのは考えにくい。ある程度の期間、年数をもちながら通学経路、通学安全について話し合いも必要だ。その期間の中で、受験の準備なども含め統合先の学校が連携して子供の大きな負担とならないよう取り組んでいく。
	7 22年度から実施計画を進め、すぐ翌年からは考えにくいということから、実際いつから具体的に進むことになるのか。早く24年以降と考えるとよいのか。	市内全部を一度に統合することはできない。素案で前後期に分け、その前期8年の中でも、条件を整えたところで考えていく。何年からということについては、逆に22年度からの話し合いの進捗状況によるところが大きい。

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
長橋中	<p>1 12P①「統合の対象校はいずれも廃止した上で新設統合も視野に入れる」とあるが、「も」とあるので、吸収統合もある得るのか。このブロックは前期だが、前回の適配を見れば、小と中の時期は段階的に行われた。前期の8年間で、小と中でどちらか先に、あるいは一緒にとなるのか。</p>	<p>新設統合のくだりは、2つのことがある。前段は、中学校の適正配置では、住吉中を菁園中と潮見台中に編入したようなやり方。後段の新設統合も視野にということは、今回の計画は全市的に見ると、41校が半分という大幅な再編案だ。A校を閉校にして(通学区を)他に振り分けるだけでは行ききれない。残る学校に集める形ではなく、新しい校名の学校を作っていく考え方で、札幌市の4校統合で資生館という学校をつくったようなやり方もある思っている。どちらのやり方がよいか、議論の材料として考える。13Pに書いているように、仮に3校が1校にすると話がまとまれば、どこの学校を残すのか、通学区ははどうするのか、校名をどうするのかという議論が当然あってよい。新設統合方式も議論素材の選択肢だろう。今回は、小、中両方の再編計画案だ。12P②で触れたが、危惧するのは、再編が決まり、時期によって小で学校を移り、中でまた変わるようなことです。「その際、同一地区内で段階的な実施となる場合は、統廃合を繰り返し経験しない間隔」ということとして、仮に小のあと中(の統合)をやる場合は、小(の統合)が前期なら、中は後期になることもあり得る。案では前期4、後期2ブロックとしているが、前期該当でも小中両方となった場合の時期も考え、機械的に前期だから8年間で終わると思えない。22年度からブロックごとの協議で具体的にどういう形が良いのか考えたい。</p>
5月25日	<p>2 3校が1校に統合となると学校が遠くなる。徒歩通学が無理な場合、財政的にスクールバスは無理だと思いが、交通機関利用の通学に補助を考えるのか。</p>	<p>統合で通学距離は長くなる。中央・山手、南小樽地区の学校間距離は比較的近く1kmから1.2km。塩谷・長橋地区は、忍路、塩谷間が5km、塩谷、長橋間がまた5km。銭函地区も同様。現在、小学校で2km以上で一定の人数がいる場合はスクールバスを出している。(長橋小の校区の)オタモイ3丁目から長橋小まで2km以上あり、中央バスに運行委託し100人以上の利用がある。中学生は部活動があるのでスクールバスではなく路線バス使用で、定期代はH19年冬から全額補助している。小2km、中3km以上の通学には、今の制度のスクールバスや定期代補助で対応する。</p>
	<p>3 統合で使わなくなった学校はどういう形になるのか。他の用途に使うのか。</p>	<p>例として、桃内小が忍路小に統合となった跡は町内会館。東山中は教委庁舎と子ども発達支援センター。住吉中は双葉中。堺小は高等看護学院と地域の町会集会施設、シルバー人材センター事務所。石山中は、表向き何も使っていないが、実は発掘した土器や博物館の収蔵物を保管している。今回の計画は相当数が再編(の結果閉校)の対象。41校すべてが避難所に指定されていて、どうしていくのかという問題があるし、地域からも活用方法を聞きながら考える。東山中の体育館は市民に開放している。どこの学校を残すか、廃校にするかの議論は来年以降になるが、地域から色々な要望が出されると思うので有効に活用したい。</p>

塩谷・長橋ブロック

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
長橋中	<p>4 忍路中、塩谷中、長橋中の校舎は昭和40年代の建物だが、1校にする際新しい学校は新校舎になるのか。</p>	<p>12P①で「新設統合」と載せた。校舎を新しくしての新設統合と、今の校舎を使い校名を変える場合も意味する。4Pにあるが、昭和30年代の校舎を持つ学校も7校で、耐震との兼ね合いもあるが、基本的には昭和30年代、44年以上経っている学校は、耐震補強という段階ではないと思う。(再編後)そういう学校をこれからも使うとなれば改築だ。40年代、50年代の校舎のうち、5校の耐震診断の結果が出たので実施設計に入る。この地区の長橋小は、今年度末から22年度にもかかると思うが、耐震補強と屋根や壁を直す予定だ。40年以上経っている学校は新築、まだ使える学校は耐震補強、改修というスタンスで進める。</p>